

教員養成における教育相談の方法と課題

—遠隔授業を通して—

今 野 紀 子*

Methods and Issues of Education Consultation in Teacher Training

—Through the remote class—

KONNO Noriko*

キーワード：教育相談，教員養成，教職課程コアカリキュラム，遠隔授業，ICT

1. はじめに

教育職員免許法¹⁾及び同法施行規則改正²⁾がなされ、2019年度から新たな教職課程が開始された。新教職課程において、大学が教職課程を編成するにあたり、参考とすべき指針とされるのが教職課程コアカリキュラム³⁾である。教職課程コアカリキュラムには、全国すべての大学の教職課程で共通に修得すべき資質能力が示されている。本研究ノートでは、教職課程コアカリキュラムにおける教育相談の方針，それを受けての本学の教育相談の授業内容，遠隔授業での工夫と成果，遠隔授業を通して見えてきた今後の課題について述べる。

2. 教職課程コアカリキュラムの方針

教育相談は、免許上の区分として教科及び教職に関する科目中、「道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目」である。含めることが必要な事項として「教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法」が明記されている。教職課程コアカリキュラムにおける教育相談の全体目標には、『教育

相談は、幼児，児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら，集団の中で適応的に生活する力を育み，個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児，児童及び生徒の発達の状況に即しつつ，個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え，支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義，理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。』とあり，教育相談を履修することにより学生が修得する資質能力が示されている。この全体目標を内容のまとまりごとに分化させた一般目標では，(1) 教育相談の意義と理論：学校における教育相談の意義と理論を理解すること，(2) 教育相談の方法：教育相談を進める際に必要な基礎知識（カウンセリングに関する基礎的事項を含む）を理解すること，(3) 教育相談の展開：教育相談の具体的な進め方やそのポイント，組織的な取り組みや連携の必要性を理解すること，とされている。その上で，一般目標に到達するために達成すべき規準として到達目標が示されている。(1) 教育相談の意義と理論では，①学校における教育相談の意義と課題を理解している，②教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している，(2) 教育相談の方法では，①幼児，児童及び生徒の不応や問題行動の意味並びに幼児，児童及び生徒の発

* システムデザイン工学部人間科学系列教授 Professor, Department of Humanities, Social and Health Sciences, School of System Design and Technology

するシグナルに気づき把握する方法を理解している、②学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解している、③受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している、(3) 教育相談の展開では、①職種や校務分掌に応じて、幼児、児童及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる、②いじめ、不登校、不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している、③教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組みの必要性を理解している、④地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している、とされている。ただし、教職課程で修得すべき資質能力については、学校を巡る状況の変化やそれに伴う制度改正によって、今後も変化するものであるため、必要に応じて改訂を行っていくことが望まれるとも記されている。

3. 本学の教育相談の授業

教職課程コアカリキュラムに従って、本学の教職課程科目「教育相談」は、以下のような構成になっている。

(1) 単位・配当年：2 単位科目で半期，2 年次相当の学生を対象としている。学科等でのクラス分割を行っている。

(2) 授業目的：学校における教育相談の意義と理論，教育相談を進める際に必要な基礎知識やカウンセリングマインドを学ぶ。その上で，教育相談の具体的な進め方やそのポイント，組織的な取組みや支援体制づくり，連携についてアクティブ・ラーニング等を通して考えていく。

(3) 授業目標

①学校における教育相談の意義と理論を理解し，それらを説明できること。

②教育相談を進める際に必要な基礎知識(カウンセリングに関する基礎的事項を含む)を理解し，それらを説明できること。

③教育相談の具体的な進め方やそのポイント，組織的な取組みや連携の必要性を理解し，それらを説明

できること。

(4) 授業計画

授業計画(全 14 回)を表 1 に示す。授業は各 100 分間で 14 回実施である。

表 1 授業計画

授業回	授業内容
1	ガイダンスー教育相談の意義と目的ー
2	教育相談の意義と理論(1)教育相談の今日的課題
3	教育相談の意義と理論(2)教育相談の理論
4	教育相談の方法(1)教育相談場面の実際
5	教育相談の方法(2)カウンセリングマインド
6	教育相談の方法(3)教育相談の基本姿勢・技法
7	教育相談の方法(4)コミュニケーション (多様なシグナルへの気づき)
8	教育相談の展開(1)学内外の連携・コンセンサス
9	教育相談の展開(2)不適応事例の教育相談
10	教育相談の展開(3)問題行動事例の教育相談 (いじめへの対処を含む)
11	教育相談の実際(1)傾聴のためのロールプレイと解説
12	教育相談の実際(2)受容のためのロールプレイと解説
13	教育相談の実際(3)教育相談ロールプレイと解説
14	総括ー教員に求められる教育相談の在り方ー

テキストは、文部科学省「中学校学習指導要領」「中学校学習指導要領解説 総則編」「高等学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領解説 総則編」「生徒指導提要」を使用している。

4. 遠隔授業での工夫と成果

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、今期は遠隔授業で実施することになった。遠隔授業は、以下の方法で行った。

(1) 遠隔授業の方法

オンライン会議サービスシステムの Zoom を利用した同時双方向型授業と，ラーニングマネジメントシステム WebClass に講義資料や課題を配信するオンデマンド型オンライン授業を併用した。オンデマンド型オンライン授業で使用するビデオ講義はクラウド型オンラインストレージサービスの Box を利用し，動画ストリーミング配信を行った。

(2) 授業の工夫

毎回の授業は，①Zoom による同時双方向型授業，②オンデマンド型オンライン授業の視聴，③Zoom によるグループ活動，④学びの整理の 4 構成で行った。

①Zoomによる同時双方向型授業：授業開始時間に毎回、20分程度実施。第1回目は、授業のガイダンスとともに、遠隔授業のルール・エチケットについて説明した。第2回目以降は、反転授業の要素を取り入れ、学生が視聴したオンライン授業のポイントや課題の振り返りを行った。Zoomによる同時双方向型授業の様子は、毎回録画し、Zoomに参加できなかった学生が、随時視聴できるようBoxで動画ストリーミング配信をした。

②オンデマンド型オンライン授業の視聴：Zoomによる同時双方向型授業の後、学生はBoxに格納されたオンライン授業（主に音声付きPowerPointのビデオ講義）の動画ストリーミングを各自視聴する。ビデオ講義は、長時間利用の疲労を軽減するため、各回10～15分間の内容でポイントを絞って作成した。ビデオ講義では一定期間、学生は何度も繰り返し視聴でき、わからない点を確認できる利点がある。オンライン授業の視聴後、学生は内容を整理し、同時に出席された課題について各自の意見をまとめる。このオンデマンド型オンライン授業の時間（ビデオ講義を視聴の上、課題を考える）は40分程度とやや長めに設定した。

③Zoomによるグループ活動：オンデマンド型オンライン授業の視聴後、Zoomのブレイクアウトセッション機能を活用し、4～5名に分かれてのグループ活動を行う。グループ活動は、②の学習時間でまとめた各自の意見をもとにしたディスカッションがメインになっている。ディスカッションでは、メンバーが各1分程度で自身の意見等を発表し、全員の発表が終わった後にディスカッション等に入る流れとした。ここでは、協力してよりよい結論をだすこと、メンバーのアイデアにアイデアを加える工夫、受容・共感・協力・傾聴の姿勢に留意すること等をルールとした。教員からの指示や説明を含めて20分程度の設定とした。

④学びの整理：Zoomによるグループ活動後、全体のまとめを各自で行う時間を20分程度設定した。学生は、自分の意見やグループ活動で深めたことを課題用紙にまとめ、WebClassにアップロードして提出する。これが評価のエビデンスともなる。なお、この課題用紙には質問・感想欄を毎回設け、学生がわからないこと、授業の感想、要望などが自由記述

できるようにした。

(3) 成果

以下に、筆者のクラスで受講した学生の総括レポートからの抜粋を示す。

- ・毎時間、顔を見ながら話し合う時間があつたのも良かった。習ったことをすぐ実践できるし、社会に出る前の予行演習になった。
- ・相手の心を思いやるためのカウンセリング手法が個人的には一番役に立った。
- ・他の人の意見をたくさん聞くことができて自分の話題の引き出しや自分の世界が広がったと思う。また、様々な課題に対する自分の考えを文字に起こすことで、自己のさらなる理解、世界の深まりを体験することができた。
- ・自分が経験してこなかった環境や状況について考えさせられる事が多々あり、自分が見てきた環境がとても狭かったことを実感した。今回の授業で学んだ事例や人の考え方から、より周りの人との関わりを深めることができそうだなと感じた。

(4) 授業アンケート結果

以下に、筆者のクラスを受講した学生（11名）の授業アンケート結果（回答者5名、有効回答率45.5%）をもとに述べる。

①出席率：出席率は100%だった。従来の対面授業（例年、90%以上）と比較しても高い出席率である。

②授業時間外学習：1時間～3時間と学生により幅はあるが、毎回小レポート課題があるため、授業時間外学習の時間は対面授業と比べて長い傾向にあった。

③教材の有用性：テキスト・配布資料・デジタルコンテンツ、レポート課題・事前事後学習の課題などについては、100%の学生が役立ったと回答した。

④理解・習得：80%の学生が、授業内容を理解・習得できた、20%がどちらかといえば理解・習得できたと回答した。

⑤興味・関心：100%の学生が、この科目の内容について、興味と関心が深まったと回答した。

⑥その他の自由記述：

- ・資料が見やすかった
- ・個人の勉強時間とグループワークの時間をしっかりとってくれたことがよかった。

- ・提出した課題を読んでもくれたり、毎回グループ活動をしてくれたおかげで、他のオンライン講義よりも先生や他の学生たちとの距離を近くに感じることができた。
- ・内容がわかりやすく、かつ実用的なもので、大変ためになった。

以上、授業アンケートの回答者数が少なく全体の把握は困難ではあるが、概ね学生の満足度は高い結果であった。遠隔授業でも、オンデマンド型オンライン授業に加え、同時双方向型授業の要素や学生が参加を実感するアクティブ・ラーニングの要素を取り入れることで、教育相談といった内容であっても十分な教育成果が得られることが示された。

(5) 問題点

通信環境：学生の通信環境の違いにより、Zoomでの同時双方向型授業に参加できない、オンライン授業を視聴できない、期限内に課題提出できない、といった不具合が発生した。また、Zoomに参加していても、グループ活動中に音声・映像が途切れるといった事態もあり、話合いが中断するなどの混乱が生じた。

プライバシーの問題：一斉のZoom導入では、ビデオ・マイクをオフで行っていたが、グループ活動では、お互いの表情を確認しながらのコミュニケーションを勧めた。教育相談では、相手の様子や表情を観察し、的確に対応することも必要な学習となっているからである。しかしながら、学生によってはビデオをオンにすることの抵抗感があり、少数だが自分の映像を出したくないといった意識がうかがわれた。

5. 教員養成における教育相談の課題

ウィズコロナの時代、今後も遠隔授業が何らかの形で継続されることが考えられる。文部科学省は、「遠隔教育の推進に向けた施策方針」⁴⁾(2018)で、

学校における遠隔システムを活用した教育の推進と具体的方策の検討を進めており、ICT（情報通信技術）の日常的な活用、遠隔授業のさらなる工夫が望まれている。また、「教職課程における教師のICT活用指導力充実に向けた取組について」⁵⁾(2020)では、『児童生徒「1人1台端末」の教育環境が実現することで、遠隔・オンライン教育を含めICTを活用しながら児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びを実現していくことが重要』としている。教育相談においても、今後は対面相談とともに遠隔・オンラインによる教育相談がなされるようになるだろう。当然ながら、対面相談と遠隔・オンライン相談とは異なる点も多く、その違いを十分認識する必要がある。今回の遠隔授業でも通信環境やプライバシーの問題が確認されたが、特に教育相談場面では、個人情報とプライバシーに関する内容も多いため、セキュリティ対策やプライバシー保護対策、ネットリテラシー、マナーの十分な理解と児童生徒への指導力も求められる。今後、教員が行う遠隔・オンライン相談の新たな枠組づくりや方法、ならびに教員養成段階で修得すべき事項についての検討が課題になると考えられる。

参考文献

- 1) 教育公務員特例法等の一部を改正する法律（平成 28 年 11 月 28 日法律第 87 号）
- 2) 教育職員免許法施行規則及び免許状更新講習規則の一部を改正する省令（平成 29 年文部科学省令第 41 号）
- 3) 文部科学省 教職過程コアカリキュラムの在り方に関する検討会（2017）「教職課程コアカリキュラム」
- 4) 文部科学省 遠隔教育の推進に向けたタスクフォース（2018）「遠隔教育の推進に向けた施策方針」
- 5) 文部科学省 中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会（2020）「教職課程における教師のICT活用指導力充実に向けた取組について」